

組織目標評価報告書(令和2年度)

5

部局名:

理学部

部局長名:

富岡 憲治

目標・取組	関連する 年度計画の番号	目標・取組の実施状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域		
<p>1. 入試の実施状況: R2年度前期日程試験志願者の動向を調査・分析するとともに、今後の入試の在り方について検討する。志願者確保のため、教育・研究活動について効果的広報活動を展開する。</p> <p>2. 教育の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・質の高い教育を推進するため、「教育の質保証」に関するPDCAを組織的に実施するとともに、優れた教員に対する表彰制度(理学部教育貢献賞)を継続実施する。 ・2年次終了時および卒業生の内の成績優秀者に対して理学部長賞を授与する。 ・自主学習室やアカデミックアドバイザーアシスタント制度により自主学習を支援し、理解度向上を図る。 <p>3. 教育方法・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最先端研究やSDGsへの取り組みを反映した学部教育に取り組むとともに、研究者、教員、一般職等、学生の多様な志向性に対応した3つの教育プログラムを始動する。次年度の50分4学期制の準備を進める。 ・3年次編入の定員増と新たな教育プログラムの実施に向けて取り組みを進める。 ・理学部附属臨海実験所は、従来の実習等に加え、ロボット工学など異分野も包括する研究直結型実習を実施する。 ・SGUの計画推進のために外国人留学生の受入れ目標数、および日本人学生の海外への派遣目標数を実現するための制度について、国際コーディネーターと連携して、引き続き検討を行い、実施する。 <p>4. 教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部教育の質保証のため、カリキュラムや授業内容の検討を引き続き行うとともに、学生自身が成果を実感できる仕組みを検討を進める。 ・進学・就職のための理学部独自のセミナーを開催する。 	<p>24-1, 25-3</p> <p>7-1, 15-1</p> <p>2-1, 7-1, 14-3</p> <p>1-1, 2-1, 3, 5-1, 16-1</p> <p>2-3</p> <p>11-1</p> <p>6-1</p> <p>5-1, 8-1, 12-1</p> <p>21-1, 22-1</p>	<p>教育領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 入試の実施状況: 定員を10名増員した3年次編入学生については、2次募集により増員分の定員を充足できた。IB入試定員化、後期日程の廃止と推薦入試の導入することを決定し、入試改革を進めた。</p> <p>2. 教育の実施体制</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生も含めたFD委員会による検討を行い「教育の質保証」を組織的に進めた。2年次終了、卒業時成績優秀者への理学部長賞の授与に加え、生物学科では退職教員からの寄付を活用し、大学院進学予定者の優秀者3名に奨学金を授与、また理学部同窓会の支援により、博士後期課程へ進学した優秀者への奨学金授与を開始することにより進学意欲の醸成に努めた。 ・3年次編入に「数理・物理人材育成プログラム」を設置し、10名を増員した。また、地域創生に資する人材育成プログラムによる入学定員の増員の可能性を検討した。 <p>3. 教育方法・内容について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・万全の新型コロナ感染症対策により、感染者を出さず、講義、実習等を進めることができた。授業実施に関しては、全学ガイドラインに沿って、オンライン、オンデマンド、対面授業を含めて実施したが、できる限り学生との接点を確保し、メンタル面でのケアに注意した。また、オンライン教育の促進のため、理学教育振興会の経費によりZoomアカウントを購入し、各学科へ配分した。また、野外実習等学外での授業等に関しては、ガイドラインを作成し、BCSを作成して実施し、新型コロナ感染防止を徹底した。 ・3年次編入の新規プログラム「数理・物理人材育成プログラム」の開始に向けて、数理・データサイエンスを始めとする新規講義を設定し、全学科への波及効果を目指した準備を進めた。 ・附属臨海実験所は、左記に加えて、研究直結型教育拠点に再度認定(次年度開始)された。 ・新型コロナの影響により、留学生の受け入れや学生の海外派遣が困難な中で、学生の国際性を涵養するためオンラインでハワイ大学と結び、国際セミナーを実施するなどの試みを行った。 <p>4. 教育の成果について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県産業労働部総括参事を招聘し、岡山県の産業人材育成方針について意見交換を行い、学部教育について検討した。学生支援センターの協力を得て県内でのインターンシップを促進する準備を進めた。 ・地球科学科4年久保駿貴君が、就職支援システムの開発により経済産業大臣賞を受賞した。
②研究領域		
<p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況</p> <p>①研究支援の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在の優れた研究を継続的に発展させるとともに、研究成果等の情報発信等により、卓越する研究を実施している個人あるいはグループを支援する。 ・今後発展が期待される基礎研究、新分野の創成を目指す研究、SDGsに貢献する研究、国内外との共同研究等を積極的に推進・支援する。 ・研究に専念できる環境を維持し、本学および理学部の特色である異分野融合を推進し研究力の向上を図り、「実りの学都」の形成を進める。 <p>②各研究分野におけるトップジャーナルへの論文投稿を強化する。</p> <p>③国際共同研究を促進するために、教員の海外派遣及び外国人研究員の滞在を推奨、支援する。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <p>①科研費申請状況を把握し、申請を促進・支援する。</p> <p>②科研費など競争的資金の採択率及び獲得金額を増加させるため、申請書の事前チェックなどの支援を行う。</p> <p>3. 共同利用拠点における状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学部附属臨海実験所は、ハブ研究直結型の教育関係共同利用拠点としての機能強化を図るため、国際的・異分野融合的な多大学連携事業を推進する。 <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異分野基礎科学研究所との連携、界面科学研究施設の活用等により、異分野融合研究を進める。 	<p>27-1, 35-1, 40-1</p> <p>31-1, 35-1, 37-1</p> <p>27-1, 37-1</p> <p>27-1, 35-1</p> <p>36-1, 38-1, 41-1</p> <p>38-1</p> <p>38-1</p> <p>11-1, 36-1, 37-1</p> <p>31-1, 37-1, 79-3</p>	<p>研究領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 研究の実施体制ならびに実施状況</p> <p>①研究支援の重点化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「RECTORプログラム:宇宙物理データ解析国際拠点形成プロジェクト」を新たに開始し、WTT教員を新規に採用するとともに、助教の公募を進めており、研究を強化する体制を構築した。 ・EU Horizon2020のResearch and Innovation Staff Exchangeにパリ大学とともに採択され、2021年秋からEUから4~5人の研究者を4年間受け入れることとなった。 ・TJ教員の採用等により、今後発展が期待される基礎研究、新分野の創成を目指す研究、SDGsに貢献する研究、国内外との共同研究等を積極的に推進・支援した。本年度は国際共同研究を24件実施した。 ・公募により戦略的に4名の気鋭の若手准教授のR3年4月1日付採用を決定した。何れも極めて優秀で、理学部の研究を活性化することが期待される。うち1名については創発的研究支援事業に採択が決定している。 <p>②研究業績については、Nature, PNAS, Current Biology等のトップジャーナルを含めて、論文数が369、うちQ1が193で目標を上回った。</p> <p>2. 研究資金の獲得状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請状況を把握するとともに、申請書のチェックを行い申請を支援した。その結果、採択率は昨年実績を上回り、交付額も目標値を1000万円以上上回った。 <p>3. 共同利用拠点における状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・理学部附属臨海実験所は、左記に加え、ハブ研究直結型の教育関係共同利用拠点として再度認定を受けた。SHINEプログラムにより海外共同研究で実績を上げた女性准教授の採用により、海洋生物学の研究力を強化した。加えて、筑波大学、京都大学、長崎大学とともにネットワーク研究拠点の申請を行った。 <p>4. その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ禍の中で、新型コロナ感染防止のため、作成したガイドラインに沿って、BCSを作成し、感染防止に万全を期した上で、学外研究機関との共同研究も多数実施した。
③社会貢献(診療を含む)領域		
<p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開講座・出前授業・研究室公開などを積極的に行い、地域貢献と科学普及に貢献する。 ・岡山県教育委員会理科部会、同数学会などの行事に積極的に関与し、理学分野において県下の高校との連携を深める。 ・スーパーサイエンスハイスクール(SSH)における研究指導、課題研究発表会、運営に積極的に参画し、高校生の理科と数学への関心を高めることに協力する。 ・理学部附属臨海実験所は玉野市などと地域社会貢献・異分野融合型の海洋教育を行う。さらに全国臨海臨湖実験所のハブ拠点として、生物学と情報学の超分野研究教育RinkaiHackやSDGs関連の連携事業を実施する。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流(国際ワークショップ、エラスムスプラス)や協定締結を前提とした招聘などに対する支援を実施する。 ・理学部附属臨海実験所は国際共同加速基金などを背景に国際事業を実施する。 	<p>47-1, 48-2</p> <p>47-1</p> <p>47-1</p> <p>11-1, 46-1, 48-3</p> <p>52-1, 2</p> <p>11-1, 52-1, 2</p>	<p>社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 地域社会との連携、社会貢献について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岡山県との連携強化を目指して、産業労働部総括参事を招聘し、岡山県の産業人材育成方針や岡山県の産業の動向についての講演並びに意見交換を行い、相互に実情の理解を深めることができた。 ・オンラインによる岡山県教育委員会理科部会、理数科合同課題発表会に、教員5名が参加し、指導・助言・優秀発表の審査を行い、高校生の科学技術への興味、理系進学意欲の増進に努めた。 ・教員の多数が、オンラインと対面を併用して、SSHの研究指導、課題研究発表会、運営に積極的に参画し、高校生の理系進学意欲を向上させた。高校生の学内への受け入れに際しては、ガイドラインを作成し、BCSを作成したうえで実施し、新型コロナ感染防止の徹底を図った。 ・環境省「生物多様性保全推進事業」によるスイゲンゼミナゴの、岡山県教育委員会によるアユモドキの保全、等を実施するとともに、津山高専、岡山理科大学等の教育研究を支援した。 <p>2. 国際交流・協力について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・附属臨海実験所は左記の他、世界的研究船Tara号を受け入れ、マイクロプラスチック合同調査を行い、学術会議マスタープラン大型計画へ貢献した。
④管理運営領域		
<p>1. 部局運営体制の改善強化: 学科長会・教授会を通して、大学・学部の抱える課題の共有化及び意思疎通を図る。また、構成員の負担が軽減されるよう業務内容の見直しと業務の効率化を図り、教員の研究時間の保持に努める。</p> <p>2. 部局組織の活性化: 教員活動評価による個々の評価を適切に行うとともに、優れた研究成果や特徴的な講義を含めて教育成果について積極的に学内外に公開し、切磋琢磨しつつ部局内の活性化を図る。</p> <p>3. ダイバーシティの推進: 女性教員や外国人教員、若手教員の採用を国際公募により進める。</p> <p>4. 効率的・戦略的な予算配分・執行: 学部および大学院への入学志願者確保のための広報活動、研究支援、学生支援等へ、バランスを取りつつ効果的に予算を配分する。</p> <p>5. 安全衛生に対する配慮: 安全衛生委員会を通じて、事故を未然に防ぎ、安全安心な教育研究環境の維持に努める。一方、構成員の健全な就労環境・健康維持にも配慮する。</p> <p>6. 情報セキュリティの確保: 学生、教職員に対する情報リテラシー教育を徹底し、情報セキュリティや情報コンプライアンスの意識の向上を図る。</p> <p>7. 施設整備の推進: 異分野基礎科学研究所の新棟建設に協力するとともに、理学部2号館の改修、およびスペースの有効利用を検討計画する。</p> <p>8. 法令遵守の徹底: 法令遵守に関するセミナーを全教職員に受講させる。</p> <p>9. 2020年度に実施される第3期中期目標期間の4年目終了時評価に向けて、引き続き準備を行う。</p>	<p>68-1</p> <p>69-1, 72-1, 85-1</p> <p>40-1, 70-1</p> <p>82-1</p> <p>89-1, 91-1</p> <p>90-1</p> <p>43-1, 87-1, 88-1</p> <p>92-1, 93-1</p> <p>84-1</p>	<p>管理運営領域における目標・取組の実施状況及び新たに生じた課題等</p> <p>1. 部局運営体制の改善強化: 学科長会・教授会を通して、課題の共有及び意思疎通を図った。特に、重要な事項については、構成員からの積極的な意見聴取を図って、全部局構成員が一体的に取り組む機運を醸成した。また、会議のオンライン化と効率化を進め、教員の研究時間の確保に努めた。</p> <p>2. 部局組織の活性化: 優れた研究成果や教育成果について積極的に学内外に広報し、部局内の活性化を図るとともに、戦略的に若手教員の採用人事を行い、教育・研究の活性化を図った。</p> <p>3. ダイバーシティの推進: WTT助教、TJ助教として外国人女性教員2名を採用し、SHINEプログラムにより海外共同研究で実績を上げた女性准教授を臨海実験所に採用した。また、女性教員ポストアップ制度により准教授1名が初めて教授へ昇任した。これにより、学部教員の多様化が促進した。</p> <p>4. 効率的・戦略的な予算配分・執行: 学部全体で休日夜間の空調使用を控えるなど、光熱水費の削減に努めるとともに、効果的に予算配分を行った。</p> <p>5. 安全衛生に対する配慮: 特に新型コロナ感染の徹底した防止に努め、これまでのところ学生・構成員からは感染者が出ていない。</p> <p>6. 情報セキュリティの確保: 構成員への情報リテラシー教育を徹底し、情報セキュリティや情報コンプライアンスの意識の向上を図るとともに、サーバー管理等も徹底することで、インシデント防止に努めた。</p> <p>7. 施設整備の推進: 異分野基礎科学研究所の新棟建設と並行して、理学部2号館(総合研究棟)の改修に向けて概算要求を行い、着工に向けて準備を進めた。</p> <p>8. 研究者倫理のオンライン講義については、関係教職員が100%受講した。</p> <p>9. 2020年度に実施された第3期中期目標期間の4年目終了時評価に向けた準備、並びに次年度の認証評価に向けた準備を行った。</p>